

Letters to the Editor

サトラリズマブ投与中患者での周術期管理

田中 正美^{1)2)*}

1) 京都民医連中央病院京都 MS センター

2) 偕行会城西病院神経内科

拝啓

サトラリズマブ (satralizumab, 以下 SAT と略記) 投与患者で手術を行う場合の周術期の細菌感染症対策について報告¹⁾がありました。確かに 30 例近い自験例では、SAT 投与開始 1 年後頃から、tacrolimus (TAC) 単独治療での視神経脊髄炎患者では経験したことがない細菌性膀胱炎の反復、根尖性歯周炎や乳房皮下膿瘍が認められる患者さんを経験するようになりました (未発表)。

報告¹⁾の患者さんでは SAT 治療期間自体が不明です。投与開始と手術施行が同じ 47 歳なので、治療期間は長くても月単位なのではと思いますが、インタビューフォームによれば、血中 sIL-6R 濃度は 8 週で定常状態に達しますので SAT 開始 2 ヶ月間以内と、relapse free 患者減少が安定する 6 ヶ月以上の投与では、免疫担当細胞に及ぼす背景が全く異なるはずで、SAT の半減期を気にされていますが、natalizumab のような直接作用する薬剤なら最大血中濃度とそれに影響される半減期、トラフ濃度は重要ですが、SAT は IL-6 を介した間接的な効果なので、薬剤の薬理作用時間と免疫担当細胞のネットワーク反応の結果としての効果の持続時間は全く別物です。後者の逆の場合、SAT 中止後から薬効が切れるまでの期間は不明です。

この患者さんでは SAT 単独ではなく、プレドニゾロン (prednisolone, 以下 PSL と略記) 11 mg/日と TAC 3 mg/日が併用されていたことも細菌感染症リスクの背景として重要ではあります。食後に内服していたら濃度が下がりますし、この方の場合、PSL と併用していますから TAC の濃度を下げる要因になります。濃度測定法も問題ですが、そもそも治療域に入っていたかどうか問題です。SAT を投与する場合、当初、併用することが多いでしょうが、SAT を始める目的を PSL 減量と可能なら中止、TAC 漸減中止と明確にするべきです。内因性コーチゾールの産生が不足しているようなら、不足分補充目的で hydrocortisone に切り替え、TAC は、食事との時間に気を付け、トラフ濃度 (測定法によって値はずいぶん異なります) を確認するべきでしょう²⁾³⁾。

10 年間 PSL 10 mg/日以上を内服していたのですから、最も重要なことは副腎皮質機能不全の可能性が高いことです⁴⁾。白血球分画の記載がありませんが、好酸球は増加していません

でしょうか？副腎皮質からのコーチゾール産生だけでなく、下垂体・副腎系を刺激する IL-6 が SAT により抑制されている可能性のある状況⁵⁾では、周術期でのステロイドカバーは重要です。術後の CRP が上昇していない微熱は、軽症ですが副腎皮質不全を強く示唆しているように思われます。稀とはいえ⁵⁾、急性クリーゼを起こさなかったことは幸いです。手術当日にステロイドはどうしたのでしょうか？「入院中・・・PSL 11 mg/日は継続していた」という記載から、周術期にステロイドカバーをしなかった可能性も考えられます。通常、PSL 継続内服中患者で手術を行う場合、手術の規模によりステロイド量を増量するよう、麻酔科や外科系学会などからガイドラインが出ています⁵⁾。

術前の血中コーチゾールの測定はこのような患者では必須だと思います。禁食で PSL 内服せずに精神的肉体的負荷をかけないようにお願い、30 分臥床安静後に少なくとも 10 時前に採血できれば、外来でも評価は可能です。

生物学的製剤市販前でも免疫抑制剤で PSL を漸減中止可能でしたが、長期 PSL 投与患者では骨粗鬆症だけでなく、副腎皮質不全のリスクにも留意しないと命に関わります。

敬具

文 献

- 1) 井上 学, 前田真吾, 大橋弘嗣. サトラリズマブ使用中に大腿骨頭壊死症に対して人工股関節全置換術を行った視神経脊髄炎スペクトラム障害の 1 例. 臨床神経 2023;63:592-595.
- 2) Tanaka M, Kinoshita M, Tanaka K. Corticosteroid and tacrolimus treatment in neuromyelitis optica related disorders. Mult Scler 2015;21:669.
- 3) 田中正美. 視神経脊髄炎関連疾患における tacrolimus 血中濃度モニタリング. 神経治療 2017;34:547-551.
- 4) 田中正美, 井上賀元. プレドニゾロン長期内服投与での副腎皮質不全. 脳神経内科 2023;98:634.
- 5) Chen Cardenas SM, Santhanam P, Morris-Wisemen L, et al. Perioperative evaluation and management of patients on glucocorticoids. J Endocr Soc 2023;7:1-16.



COI : 著者に本論文に関連し、開示すべき COI 状態にある企業、組織、団体はいずれもありません。

***Corresponding author** : 田中正美

京都民医連中央病院京都 MS センター (616-8147 京都市右京区太秦土本町 2 番 1)

Perioperative management of patients treated with satralizumab

Masami Tanaka, M.D., Ph.D., F.A.A.N. ¹⁾²⁾

1) MS Center, Kyoto Min-Iren Chuo Hospital

2) Department of Neurology, Kaikoukai Josai Hospital

Rinsho Shinkeigaku (Clin Neurol) 2024;64:300-301

doi: 10.5692/clinicalneuroi.cn-001935